

香川県立高松西高等学校

横井 透 主幹教諭

今回は、定期試験等でデジタル採点ソフト『採点ナビ』をご活用いただいている香川県立高松西高等学校の横井透主幹教諭にお話を伺いました。

インタビュー日 2022年2月4日



記事写真撮影：高松西高等学校写真部の皆さん

複数社のデジタル採点ソフトをトライアルした結果、『採点ナビ』に決めました。

・プロセス数が少なく採点できるという仕組み

まずは自己紹介からお願いいたします。

香川県の公立高等学校の教員になって24年目になります。英語の教員として採用されまして、途中で教育委員会にもいたことがありますが、今年から主幹教諭という役職をいただきました。主幹教諭というのは、何かの特命を背負ってその高校に配属される教員のことを言います。

私の場合は、校長先生がICT教育の推進を強く望んでおり、そのために本校に私が赴任しました。来年度からのタブレットPC導入の段取りなどのためにICT推進委員会を活用し、その中で、デジタル採点ソフトウェアの導入にも力を入れて取り組んできましたね。

デジタル採点に興味をお持ちになった理由を教えてください。

そうですね。デジタル採点の存在は前から知っていたのですが、数年前に働き方改革の関連法案ができて、教員の方にもやはり勤務の管理としての対応が必要になりました。「残業しても月45時間、年間というと360時間までをMAXにしてね」という、一定のラインができたのです。その働き方改革で勤務時間が絞られる中で、どのように効率的に校務をこなしていくか？というところを考える必要ができてきましたね。そこで、デジタル採点ソフト、これすごくいいんじゃないかなと思いました。それが理由ですね。

やはり、働き方改革というのは大きなきっかけなんですね。では、具体的にはどのように検討されたのでしょうか？

『採点ナビ』の前に、2社のデジタル採点ソフトをすでにインストールして試していました。昔と違って、専用紙ではなく普通紙で運用できますし、複合機も学校に整備されているので、トライアルできる環境は整っていましたね。

他社ソフトの印象というか、手応えはあったのでしょうか。

複数社でのトライアルにあたっては、例えば解答用紙を印刷した後に少し複雑な工程があったり、ソフトが一つではなく工程ごとに別々だったり、いろいろ思うところがありましたね。全体的には、最初から最後までプロセスがちょっと見えづらいなという印象はありました。

また、「あれもできる」「これもできる」という機能が多い分、設定や作業まで枝分かれしてしまうので、初心者にはかなり難しいかなという感想でした。そんな時に『採点ナビ』も試してみることにしました。

『採点ナビ』をお試しいただいた際はどうだったのでしょうか。

そうですね、まずインストールですが、『採点ナビ』は多少時間がかかりますが、初心者にも困らないようにいろんなものをパッケージングしてくれていて、それが一つのアイコンに収まっているのがいいなあ、と思いました。それと『採点ナビ』は、プロセス数が少なく採点できるという仕組みになっていることが、すごく大きな利点だと思いましたね。



『採点ナビ』はプロセス数が少ない。導入時は簡単さが重要なので、この差は大きい。

プロセス数が少ない、というのはどのようなことなのでしょう？

もうシンプルに「まず模範解答を作ってくださいよ、そして生徒の解答用紙と一緒にスキャンしたらすぐ採点できますよ」というプロセスです。そのプロセス数を増やしてまでいろいろな機能を搭載するのは、売り手側の視点なんですよね。開発側から見れば大したことないと思うのかもしれませんが、我々はプロセスが一つ増えたりすると、もう手採点でいいやってなるんですよ（笑）。

機能よりシンプルさ…先生にとって作業の工程が少ないというのは、それほどまでに重要なのですね。

そうですね。だって、手採点は解答用紙が戻ってくれば、すぐ丸つけできます。デジタル採点を使うということは、使いはじめてのハードルをいかに下げることが大切なんです。採点を100メートル走に例えれば、手採点は走る人間、デジタル採点は車なんです。車は最初は遅いけれど、走り出したら圧倒的に速い。最初遅いのは、設定とかスキャンとかありますからね。せっかく「車で行くぞ!」と思っても、そこでプロセス数が多いとやっぱり我慢できなくて「もういいです。もう走ります。車じゃなくて走る方で行きます。」とになってしまうんです（笑）。

そう考えると、このようなソフトウェアの導入時には、やはり最初が肝心とも言えますね。そのあたりを『採点ナビ』は、草の根的に作り上げてきているというか、我々がここ直したらいいのにな、というところを汲み取った上で作ってくれているソフトウェアだと思いましたね。

もちろん、導入方法は販売でもサブスクリプションでもどちらでもいいですよ、と柔軟に対応してくれたり、東京から香川県まで説明に来てくれたり、他にも『採点ナビ』に決めた理由はたくさんありますが、他の先生に使い方を説明している立場の私から見ると、プロセス数の少ないシンプルさと顧客目線でのパッケージングが優れているところが一番の魅力ですね。

観点別評価は大切で大変な改革。 せめて観点の集計くらいは自動にしたい。

・観点別の集計は『採点ナビ』で自動計算

—— 高等学校でもスタートする「観点別評価」に関して『採点ナビ』はお役に立てておりますでしょうか？

はい、結論としては観点別の集計を『採点ナビ』が自動計算してくれることが非常に役立つ、ということになります。観点別の得点集計を手作業でやっていたら大変ですからね。

—— 試験問題を作る時などに「観点別評価」が導入されると、先生にとってはかなり大変なのでしょうか？

例えばテスト用紙があって、左側が全部知識の観点問題、右側が思考力の観点問題なんていう試験問題だったら、観点別の集計も楽なんですけどね。実際はそんなことなく、最初に思考力があって、次に判断力、知識、知識、思考力・・・みたいに混ざった状態なんです。さらに、作った後に「思考力が少ないからもっと増やそう」とか試行錯誤しながら作っていくんです。そもそも「観点別評価」は、5段階評価の根拠になるものをそれぞれ3観点でA B Cで示していくものです。保護者の方に「どうして、ここは思考力がBなんですか？」と聞かれたら、それを説明する必要があります。そのような時に「このテストのこの観点の結果を見てください」という根拠として使います。もちろんテストだけではありませんよ。プレゼンテーションでの表現力とか、いろいろな観点からの評価が必要になります。もうね、先生の業務全体が変わるので、かなり大変です。だから、せめて集計だけは『採点ナビ』を使って時間短縮をしたいわけです。

—— 「観点別評価」の導入は、私たちが思う以上にいろいろ影響があるんですね。

そうですね。高校での学びをいわゆる「学力の3要素」で伸ばして行って、高大接続というか、高校と大学を繋ぐ「共通テスト」でもそこを問われるわけですから。とても大切で大きな改革だと思っています。

—— 他にも、手採点と比べて『採点ナビ』が役立っていることはありますか？

・理解度が足りない問題を正確にピックアップ

私の場合は、テスト返却時の説明で役立っていますね。『採点ナビ』は、手採点と違って採点后に正答率を自動算出できるので、例えば30%以下の正答率だった問題を返却時に説明するようにしています。全部の問題は解説できないですから、だいたい30分くらいなので丁度いい時間配分になるんです。手採点の時はもう直感で問題を選んで解説してましたからね、やはりきちんと正答率が低いもの、つまり理解度が足りなかった問題を正確にピックアップできることはとてもありがたいです。



香川県立高松西高等学校

—— そうすると、生徒さん達にとっても恩恵があるんですね。

ありますね。「この問題の正答率は5%だったよ」のように説明すると、生徒にとっては、すぐリアルに数値で自分のでき具合いや問題の難易度が分かりますから、これは大きな導入の効果だと思います。

それと、採点後の答案用紙を汚すことなく生徒たちへ返却できるようになりましたね。採点していると途中で採点基準が変わったりすることってよくあるのですが、手採点の場合は、先に丸付けしてしまった生徒の分はペンで修正しないといけないので、ぐちゃぐちゃになってしまうこともあるんです(笑)。丸付けだけじゃなくて、得点も68点が69点になって最終的には70点になったとか、得点の部分も修正跡が残ってしまいます。デジタル採点は何度再採点しても、返却する答案用紙は綺麗に印刷されますから、それがとても良いですね。生徒にとっても、見やすく良いと思います。

あと、この『採点ナビ』を使うことで、すごく時間短縮効果があったパターンがありまして、それは一人の先生が多くのクラスで教えている場合です。複数のクラス分を一気に採点できるので、今まで2日間かかっていた採点が1日でできるようになったりして、とても感動していました。例えば同じ地歴・公民科の先生でも公民分野は一人しかいないんですよ。採点対象の生徒はクラスをまたいでかなり多いので、そういう立場の先生にはかなりお勧めですね。



生徒の立場から見る 『採点ナビ』の長所

- ・ 「この問題の正答率は5%だったよ」と説明されると、すぐリアルに数値で自分のでき具合いや問題の難易度が分かる
- ・ 再採点の修正跡が残らないので、返却された答案用紙が綺麗で見やすい

今後は、自宅でも『採点ナビ』を使って採点できる環境を整えていくことが課題です。

—— 観点別評価もスタートしますが、デジタル採点の活用において、今後の課題があればお聞かせください。

そもそも働き方改革を推進するために導入を検討していたので、『採点ナビ』を使うことで残業をせず定時に帰れることが、やはり一番大きいメリットなんです。先生方も、使っていく中でどんどん自分だけの改善点を見つけて工夫しながらソフトを使いこんでいるので、使い方はもう大丈夫だと思います。なので、今後は学校だけでなく自宅でも採点ができるような環境を整えていきたいと考えています。保育園に子供を迎えに行く必要のある先生方でも、自宅で採点できるようになればかなり便利になると思います。『採点ナビ』であれば、その運用も可能な仕組みでありライセンス的にも問題ないということで、それも『採点ナビ』導入を決めた理由でもあります。システム環境や個人情報保護などの問題もありますので、そこをクリアできれば実現していきたいと思っています。

—— 貴重なご意見をありがとうございました。『採点ナビ』の導入にあたり横井先生には大変お世話になりました。横井先生が、最初に試してみても分りにくい点を解決してから、そのポイントも踏まえて他の先生方にレクチャーしていただいたようで大変感謝しております。今後ともよろしく願いたします。